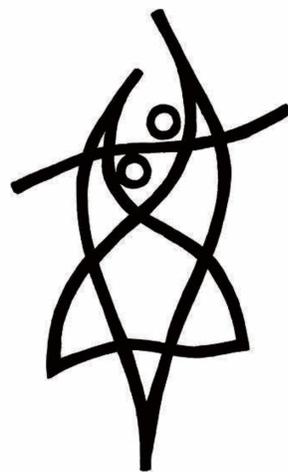


# News

SAITAMA

DANCE ASSOCIATION



No. 56

埼玉県舞踊協会  
ニュース  
2023.10.20



## バレエシューズ部門新設！

第55回コンクールより、バレエシューズ部門を新設！出場者には審査員からのメッセージカードと賞状をお渡しし、大変好評な新企画となりました！

### ごあいさつ

一歩ずつ秋らしくなって参りました。今年は酷暑の中、連日皆様に多大なご協力を頂き、第55回埼玉全国舞踊コンクールを無事に終了する事ができました。心より感謝申し上げます。新しくバレエシューズ部門も加わり、初々しく踊る姿に接しました。嬉しく思います。来年には新たに、トライ部門も加わります。舞台経験を重ねる事でご参加頂く方々の成長の助けになればと思っております。宜しくお願い申し上げます。又、11月5日には、文化庁文化芸術振興費補助金により沖縄県那覇文化芸術劇場なはーと大劇場にて、埼玉全国舞踊コンクール創作舞踊部門1位受賞者8名と共通テーマを元に藤井香の総合演出による「結・海と空」を上演致します。皆様のご理解とご協力を心から願っております。

埼玉県舞踊協会会長 上原尚美

P.2 第55回埼玉全国舞踊コンクール開催！

P.7 ダンスとからだの関係 第2弾！

P.8 協会からのお知らせ / お問い合わせ  
編集後記

発行所 埼玉県舞踊協会

発行者 上原 尚美

埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3階

TEL 048-882-7530 FAX 048-882-7549

# 第55回 埼玉全国舞踊コンクール 2023

7/24～29 バレエシューズ部門・クラシックバレエ部門・創作舞踊部門 8/6～11 モダンダンス部門

主催 埼玉県舞踊協会 会場 埼玉会館大ホール

後援 埼玉県、埼玉県議会、埼玉県教育委員会、(一社)埼玉県文化団体連合会、朝日新聞さいたま総局、埼玉新聞社、東京新聞さいたま支局、毎日新聞さいたま支局、読売新聞さいたま支局、テレビ埼玉、チャコット(株)、一般社団法人現代舞踊協会、(公社)日本バレエ協会、(公財)橘秋子記念財団、(公財)埼玉県芸術文化振興財団

CDAJ/Contemporary Dance Association of Japan

## 創作舞踊部門

外部審査員

批評家 うらわまこと/関下景子(彩の国さいたま芸術劇場事業部舞踊担当)

舞踊家 笠井瑞丈/キミホ・ハルバート

審査員講評 創作舞踊部門 うらわまこと

創作活動は、作者だけでなく、ダンサー、スタッフなどとの協力活動ですから、コロナ禍が少し落ち着いたとはいえ、まだまだ厳しい状況下にあり、そのなかで参加されたみなさんには敬意を表します。また、参加者の関係もあったでしょうが、あえて絞らず予選参加者全員が決選に進み、全作品が2回上演できたことは、とてもよかったです。

たしかに、全7曲、あまり差はありませんでした。

さて、創作でもっとも重要なのは創造(クリエイション)ということです。これは別の言い方をしますと、作品のモチーフ、意図を実現するために、さまざまな工夫、アイデアをこらすことです。それは、もちろんまずダンス、すなわち動きであり、フォーメーションですが、そのための出演者の選定、さらに音楽、衣裳や舞台美術、そしてこれらをどう組み合わせるかです。

意図とは、作品として何を表現するか、見る人に何を伝えるかです。それを具体化したのが「タイトル」です。ただ、これは記号ですから、そのままの意味でなく、そこに隠された、あるいは比喻された意味が大事です。

たとえば第2位になった「おしゃべりな二人」(磯結夏)、男女2名によって演じられます。これはたんに2人が盛んに話し合っている光景を描くだけではありません。その視覚的な面からの情報をとらえて、男女の関係、状況、さらにその生きざまから、これからの2人がどうなるか、といったことを感じさせるもので、ここではとくに終わり方に特徴がありました。

第1位の「進退維谷～世の縛りに囚われて～」(藤井颯)は、タイトルからすでにある程度具体的な意味が想像されて、かえって作るの難しいのですが、5人の出演者によって、あるていどまでその孤独感、焦燥感というものが伝わりました。第3位の「雲に梯」(柴野由里香)は、梯を使ってこの言葉を具体化しつつ、その真の意味、すなわち届きそうもないものを目指すこと、これは高い目標に挑戦という肯定的にとらえるか、無駄な努力か、しかしその努力から何か生まれるかなど、いろいろと考えられる深さがあります。他の作品もいろいろな意味を感じさせるタイトルで、興味深く拝見しました。

そして、全体として、それぞれの意図、作品の意味を伝えるための工夫、手段の効果、そしてダンスの質などについて、その総合の多少の差が順位を決めたと思います。

© スタッフ・テス/松澤綾子



創作舞踊部門第1位 藤井颯 作  
「進退維谷 ～世の縛りに囚われて～」



第2位 磯結夏 作「おしゃべりな二人」  
出演 森川次朗 磯結夏



第3位 柴野由里香 作「雲に梯」  
出演 陸 山田愛子 柴野由里香

このような光栄な賞を頂きとても嬉しく思います。幼き頃から出場していたコンクールであり、目指していた賞なので受賞できた事は自分の中で光栄な出来事です。一緒に出場してくれた同期にもとても感謝しています。

出演 藤井颯 松本梨緒 野沢心南 片岡東子 高橋あかね

## クラシックバレエ部門

外部審査員

批評家 うらわまこと(1部)/林愛子(ジュニア部)/児玉初穂(2部)

舞踊家 安達哲治/成澤淑榮/早川恵美子/本多実男

### ●1部(成人)

審査員講評 クラシックバレエ部門1部 うらわまこと

教育には基礎から展開、応用、そして実践というプロセスがあります。ダンスでもそうです。つまり、教育を受け、成長し、一人前のダンサーになるにはステップがあり、コンクールに児童やジュニアなどの部門があるのはそのためです。そしてその最終目的である一人前のバレエダンサーとは、単に高い技術力を身に付けているということではありません。

きちんと作品を理解し、役をそしてその場の状況を理解して、それを的確に表現し、さらにいえばそれによって見る人に感動をあたえることです。

すなわち、とくに第1部(成人)では、これが評価のポイントとなります。たしかに、コンクールだけでなく、若い人で跳んだり回ったり技術だけを取り出せば、驚くような高いレベルに達している人はたくさんいます。しかし、たとえば王子(デジレ)、床屋(バジル)、海賊(アリ)

がみな同じような感じの踊りでいいのでしょうか。また、オーロラやキトリ、メドーも、役や状況の意識を持って踊っているのでしょうか。さらに厳密に言えば、いわゆる金平糖のV. それがお菓子の国の女王が踊る場合とクララ（マーシュ）が踊る場合では、振りは同じでも表現は全くちがいます。優れた舞踊家は優れた表現者だということを忘れない、というより、むしろそこにやり甲斐を感じて欲しいと思います。

残念ながら、最近では海外のトップダンサーたちも、とくにガラ公演などでは、たんにアクロバティックな技術を見せ合い、観客もそれを喜ぶという風潮がみられます。しかし、それでは心からの感動は与えられません。

その点、今回の上位入賞者は、第1位のガムザッティの心象を演じきった御沓紗也はじめ、第3位の1～3、兵藤杏、小澤祐貴子、水野七菜子など、すでにバレエ団で役を演じているものが多く、第2位の1 ガイナーヌの雰囲気や巧み表現した風間瑠花、ロマの心を伝えた嶋田美紅（第2位の2）も全幕公演を続けているスタジオで、たんなる技術だけでないものを見せていました。つづく近藤ひなの、石丸智織、福田千里からも技術的には遜色なく、これからは作品のなかで踊る、役を理解するという意識をもう少し身に付ければ、さらにプラスアルファが生まれてくるのではないのでしょうか。他にも、これから期待できるダンサーが多くみられたのは嬉しいことでした。



第1位 御沓紗也「ガムザッティのVa」

歴史ある埼玉のコンクールで一位をいただけて、大変光栄に思います。支えて下さった方々に感謝しています。観ている方に役の感情や背景が伝わるような踊りを目指して、今回の受賞を糧にまた精進していきます。



第2位の1 風間瑠花  
「ガイナーヌのVa」



第2位の2 嶋田美紅  
「エスメラルダのVa」



第3位の1 兵藤杏  
「騎兵隊の休息よりVa」



第3位の2 小澤祐貴子  
「グラン・パ・クラシックのVa」



第3位の3 水野七菜子  
「フローラの目覚めよりVa」

© スタッフ・テス/松澤綾子

## ●ジュニア部



第1位 為井華「サタネラのVa」

歴史ある埼玉全国舞踊コンクールで、第1位という結果を残すことができとても光栄に思います。お客さんを楽しませる気持ちを大事にし、今までで1番楽しく踊ることができました。これからも日々頑張っていきます。



第2位の1  
木村建心「パキータより男性Va」



第2位の2  
大石惺亜「白鳥の王子のVa」



第3位の1  
村田剣一「タリスマンの男性Va」



第3位の2  
小林りりあ「シルヴィアのVa」

## 第56回埼玉全国舞踊コンクール 2024 開催！

日程 2024/7/27(土)～8/7(水)

会場 埼玉会館大ホール

申込 2024/4/11(木)～20(土)

新設のトライ部門にもご注目ください！詳しくはP8にて。



第3位の3  
澁谷菜々瀬「ワルプルギスの夜よりVa」

© スタッフ・テス/本橋亜弓

● 2部 (児童)

審査員講評 クラシックバレエ部門2部 (児童) 児玉初穂

95名の審査を終えてまず思ったのは、古典の様式性、役の解釈が、児童期の指導においても徹底されているということだった。技術だけではなく、舞踊として総合的に訴えかけることのできる出場者が増えている。エポールマンを含むスタイル、さらに役としてどう踊るのが細かく指導され、結果として古典舞踊の香りを漂わせるヴァリエーションを多く見ることができた。

1位の金井さらさん (アルレキナーダ Va)、2位の1の長田楓栄さん (サタネラ Va)、2位の2の永田尚子さん (パキータより Va) は揃って、技術、様式性、古典の香気を備えている。また3位の2 滝本慧さん (スワニルダ3幕 Va) の脚のコントロール、3位の3 菊地麗さん (オーロラ1幕 Va) の気品、東京新聞賞 松本未愛さん (パキータより Va) のエポールマン、チャコット賞 福田希良花さん (フローラの目覚めより Va) の確かな技術、奨励賞 渡辺柚希さん (パキータより Va)、加藤瑠菜さん (ライモンダより Va)、松本妃央さん (バヤデールより Va) の美しい古典スタイル、入賞外ながら緒方里桜さん (騎兵隊の休止より Va) のロマンティシズムあふれる役の踊りが印象に残った。男性出場者はまだ幼く、表現よりも技術に力点があるように見える。

指揮者の鈴木雅明は「歌手の巧拙は、舞台に出る歩き方を見れば分かる」と言ったが、バレエも同じく、舞台への出方、歩き方で、優れた踊り手かどうかが分かる。今回の審査でも、出場者が舞台に出るその一歩に、思わず惹き込まれることが何度もあった。自分の全てが、舞台に観客に捧げられていること、自分を偽らず正直に見せることが、舞台人に必須の条件だが、今回の出場者を見る限り、こうした極意を踏まえた指導者が増えているように思われる。



第1位 金井さら  
「アルレキナーダの Va」

この度は、埼玉全国舞踊コンクールで1位を頂くことができ心から嬉しく思います。ご指導くださった先生、支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも踊る楽しさを忘れず努力していきたいと思ひます。



第2位の1 長田楓栄  
「サタネラの Va」



第2位の2 永田尚子  
「パキータより Va」



第3位の1 浅田良舞  
「フランツの Va」



第3位の2 滝本慧  
「スワニルダ3幕の Va」



第3位の3 菊地麗  
「オーロラ1幕の Va」

◎ スタッフ・テス/松澤綾子

モダンダンス部門

● 1部 (成人)

審査員講評 モダンダンス部門1部 (成人) 池野恵

今年は81名のエントリーから予選を経て、決選に進出した63名全員の出場が、まず何より喜ばしい。自粛や規制に縛られたこの3年余りの期間にも、挫(くじ)けることなく地道に練習を重ねて来たであろう参加者の成果が見られたのは、大いに励まされ、又、感謝の念に堪えない。

モダンダンス1部は、これまで2部、ジュニア部を経てコンクールという舞台に親しみ、切磋琢磨して来た経験者が少なくない。それ故、技術と表現のバランスの取れた基礎力は言うまでもなく、それぞれ考え抜かれた楽曲や衣裳等はもちろん、入念なりハーサルの跡が窺える高いレベルでの争いとなり、採点には少々てこずったと告白しなければならない。将来を担う人材の底上げは、着実に進んでいる事を実感した。

全体の印象としては、比較的ゆったりとした曲でじっくり踊るといった傾向が多く見られた。これは主に技術的に安定している事を示すのに有益であるが、一方で表現の充実を伴わなければ効果も限定的であり、ともすれば雰囲気だけの表面的なパフォーマンスに陥りがちである。参加者一人一人にとって洗練された内容であったとしても、客席に座っている身からしたら、似通った印象を持ってしまう。又、オリジナリティ重視といった面から、動きの多彩さより、その背景にある表現に拘るパフォーマンスも見られた。むろん舞台では、どんな内容であれ説得力のある表現であれば歓迎だが、創作舞踊部門以外では基本的にダンスを見せて欲しいと願う。季節の移ろいや動植物等の自然、さらには人生の一瞬を切り取ったものから、音楽や美術等、既存の芸術作品から触発されたものまでテーマは様々であるが、その中に各々のダンスへの思いが溢れるようなパフォーマンスを見たい。求めているのは器用にまとめる力ではなく、ダンスへの真摯な情熱と衝動、強固な意志そのものである。

ダンスは、当事者だけではなく第三者に大きな喜びをもたらすものである。コンクールといえども観客あつてのパフォーマンスであることを、まず舞台に立つ際には心がけて欲しい。

外部審査員

批評家 池野恵 (1部) / 高橋森彦 (ジュニア部) / 松あつこ (2部)  
舞踊家 川村昇 / 武元賀寿子 / 波場千恵子 / 松永雅彦



第1位 室岡春香  
プレイフォー  
「pray for」

この度は、素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。ご指導下さった先生、そして支えて下さった皆さまのお力添えあつての結果だと思っております。今後も、人の心に届く表現を目指し、精進して参ります。



第2位の1 木原レン  
「明けない夜はない」



第2位の2 板橋玲奈  
「SWAN- 最期の羽音 -」



第3位の1 金森みずほ  
「ゲルニカ - 怒りの描画 -」



第3位の2 荒澤来瞳  
「鳥になる日」



第3位の3 井上萌美  
「幻夏を往く」

© スタッフ・テス/上野能孝

## ●ジュニア部

### 審査員講評 モダンダンス部門ジュニア部 高橋森彦

今回は予選でも決選同様3分間踊ることができた。決選出場者の皆さんの多くは気持ちを落ち着けて踊ることができたのではないかな。

"コンクールは水物"とよくいわれる。たしかに、踊る人のコンディションや審査基準によって評価が違って来る面もあろう。だから、結果に対して仮に不本意に終わったとしても、過度に自分を責める必要はあるまい。しかしながら、この10年各種の舞踊コンクールでモダン、バレエ、創作の審査をさせていただき、審査結果全体を見渡すと「なるほど」と思う辺りに落ち着いているというか、それなりの意味があると感じることが多い。

モダンダンスジュニア部は中学1年生から高校3年生までと年齢幅がある。今回の決選の結果をみると、成人顔負けの力量を示した高校生と思しき人だけでなく、2部(児童)から上って間がなさそうな人もかなりの上位に食いこんだ。審査員の評価軸や舞踊観は一様ではないし、実演家の先生方と評論家では視点がやや違うかもしれないが、全体的な結果をみれば各審査員の評価が極端に異なることはない。何が問われるのか。

年齢幅や作品の色は違えども、まずは基礎が見られる。入賞者の多くがバレエベースであろうがトレーニングをしっかりと行い、表現の器ができている。そして、審査員が共通して見逃していないのは「いかに自分自身の踊りとして表現できているか」だろう。中高生にもなれば、振りをものにするだけでなく、自身の表現として思考しているか否かが評価の分かれ目となる。バレエでも同じだと考えるが、そうでないと人の心を惹かない。

上位3曲に関してコメントしておく。第1位「籠のなかの鳥」は、昨今の閉塞的な世相、いま世界で起こっていることとリンクする創作で、終盤に銃声が続く場面などメッセージ性が強いともいえる。でも、ダンスはその絵解きではなく、演者のしなやかで強く切実な表現で押し切った。第2位の1「沈黙の声」は、表題通り沈黙に潜む密やかな声を繊細かつ奥深く紡ぎ出し、独自の踊りの世界へと惹きこむ力量が一頭地を抜く。この2曲は甲乙つけがたい。第2位の2「lonely moon」は、踊りの呼吸の運びが非常にうまいが、そこに作り物ではない純真さを感じた。三者三様、自分自身の踊りをしているからこそ、ダンスを通して伝わってくるものが大きいに違いない。

すべての出場者の皆さんが、今後も踊る心を大切に歩むことを願っている。



第1位 高野凛 「籠のなかの鳥」

この度は第1位という名誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。ご指導して下さいる西村葵先生、幅田彩加先生はじめ先生方には感謝しております。これからは自分自身と真摯に向き合い表現や技術を追究して参ります。



第2位の1 小峰 珀良  
「沈黙の声」



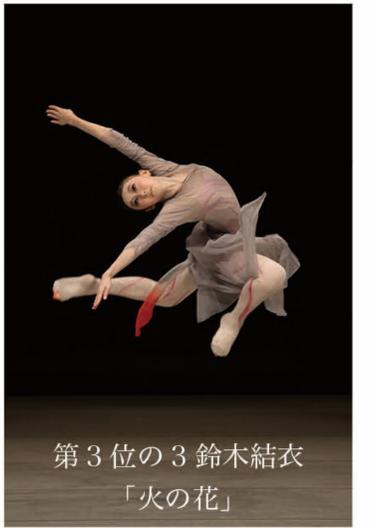
第2位の2 神尾 海希  
「lonely moon」



第3位の1 舟田 桔平  
「からっぽの空」



第3位の2 近藤 花音  
「境界の果て」



第3位の3 鈴木 結衣  
「火の花」

© スタッフ・テス/上野能孝

## ● 2部

### 審査員講評 モダンダンス部門2部(児童) <sup>すずな</sup> 松あつこ

まだ幼児の面影を見せるあどけない小学校1年生から、もう大人びた表現もこなす5、6年生。小学校の6年間での変化、成長というものは想像以上に大きいことを実感しながらの審査となった。そして、低学年の子供らしさを活かした作品はとても可愛らしく微笑ましいのだが、上位入賞は難しい傾向にあることも痛感。「この6学年が同じ部門で良いのか？」ということも頭によぎった。

私なりの審査基準、「踊る身体が出来ているか?」「芸術としての表現になっているか? 観る者の心を揺さぶるか?」の2つを両輪のように、どちらも必要なものとして作品を観せていただいた。「踊る身体」を磨くことをリードするのも指導者だが、この部門ではまだ自作自演はほとんどないかと思うので、出場者に合った作品を与えるのも指導者だろう。その作品の良し悪しがかなり影響する。結果を見ると、作品としての構成が上手いなと感じるものが上位に並んだ。なかでも今回特に、第1位、第2位の1、第3位の1が同じ指導者、新美佳恵であったことが印象深い。

第1位は金子衣織、「哀歌(エレジー)」をスローな部分もしっかりとコントロールの効く身体で繊細な心情表現も自然に観せた。第2位の1の久保田葵音の「蒼のポルカ」は音の取り方も面白くセンス光る振付、それをしっかり自分のものにして。第3位の1の尾崎紗那の「光りの向こうへ」も軸のぶれない回転など技術を活かしながら作品の世界を創りあげていた。第2位の2の藤堂あさひの「蒼き空に描く詩」(指導:関根佳子)のスケール大きな踊り、第3位の2の田中心悠の「灯火の少女」(指導:西村葵)の丁寧でこなれた踊り、第3位の伊藤宛南の「神様、あなたを信じていいですか?」(指導:平多結花)の美しい首のラインを活かした動きも、それぞれ目を引いた。

他の入賞者のなかで、笠井星良の「赤き瞳のキャロル」(指導:西村葵)のどこか妖しさも感じさせる踊り、清水陽菜莉の「ひまわり畑と夏の空」(指導:窪内絹子)の爆撃音などを使ったウクライナを思わせる作品も個人的に心に残った。

また、今回も外国語、日本語ともに歌詞のある音楽を使った踊りが多いことも実感。「言葉で言い表せないものを表現する」のがダンスの醍醐味と思うと、よほど上手く使わないとマイナス要因になりかねない危険をはらんでいるとあらためて思う。

とはいえ、全体を振り返って、このコンクールはレベルの高い作品の数々が並ぶので、それぞれ興味深く、あっという間に過ぎた1日だった。



第1位 金子衣織 <sup>エレジー</sup> 「哀歌」

先生の細やかで丁寧なご指導と家族や周りの皆さんが支えてくださったおかげで第1位をいただくことができとても嬉しいです。感謝の気持ちを忘れずに、見ている人に想いを届けられるよう精一杯お稽古を頑張ります。



第2位の1 久保田 葵音  
「蒼のポルカ」



第2位の2 藤堂 あさひ  
「蒼き空に描く詩」



第3位の1 尾崎 紗那  
「光の向こうへ」



第3位の2 田中心 悠  
「灯火の少女」



第3位の3 伊藤 宛南  
「神様、あなたを信じていいですか?」

© スタッフ・テス/上野能孝

## ダンスと身体の関係 第3弾！

# 適切なストレッチ できていますか？

●島田ひかり／理学療法士

HP <https://smdh1224.wixsite.com/website>

連絡先 smdh1224@gmail.com

ストレッチは簡単にいうと筋肉を引っ張って伸ばす行為です。身体の筋肉には、それぞれ始点と終点があります。例えば、ハムストリングス（以下、ハム）という筋肉は、太ももの後ろ側にある筋肉です。坐骨（ごこつ）と呼ばれるいすに座った時にある左右一対のお尻の引っ張りの部分から始まって（始点）、膝裏の少し下で終わります（終点）。ハムが硬いと、開脚（スプリッツ）ができなかったり、脚がたくさん上げられなかったりします。そのため、普段からストレッチをしている方も多いと思います。ですが、間違った方法で行うと効果が出ずに時間を無駄にしてしまうだけでなく、身体の別の場所を痛めてしまう危険性もあります。

上下2つのガイコツの姿を見比べてみましょう（図1）。一見、上の方が沢山前屈しているように見えますが、始点と終点の距離（ハムの筋の長さ）を見てみると下の方が長くなっています。実は上のガイコツは骨盤が後ろに傾き、背骨を丸めているだけで、ハムはあまり伸ばされていません。このように、適切なストレッチをするためには、筋肉の始点と終点を考慮する必要があります。なぜなら始点と終点の距離が遠ければ遠いほど筋肉は引っ張られ（伸長され）、よりストレッチの効果が高まるからです。

ここで、バレエダンサーはもちろん、バレエ未経験の方でも安全にかつ確実にハムのストレッチが行える方法をご紹介します。まず、いすを用意します。

そして、いすに浅く腰掛けます。片方の脚を手前に引き、もう片方の脚を前に真っ直ぐ伸ばします。前に出した脚の膝は曲がらないようにして、背中が真っ直ぐの状態を保ちます。この状態でももや膝の後ろが伸びる感じがある方はそれで十分ストレッチされているので、その状態を保ち続けてください（図2①）。余裕のある方は、背中が真っ直ぐの状態を維持しながら、ゆっくりと身体を前に倒していきます。この時両手は太ももや膝の上に軽く添えても構いません（図2②）。膝が曲がらないあるいは背中が丸くならないギリギリのところまで身体を前に倒し、姿勢を保ちます。つま先を天井の方に向けるとよりストレッチ効果が高まります。呼吸を止めず・反動をつけず・じーっと30秒ほど伸ばし続けることがポイントです。片方行ったら、もう一方の脚も行ってください。ストレッチをする前よりも後の方が前屈しやすくなっていれば、ストレッチの効果ありです。一度ストレッチを行っただけでは、効果はすぐに消えてしまいます。無理のない範囲でぜひ継続してみてください。

図1

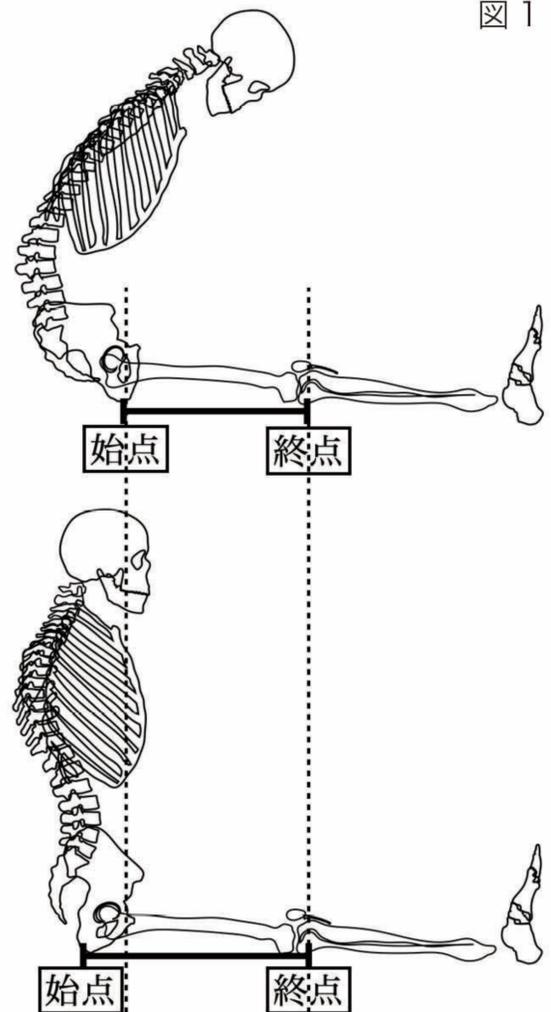
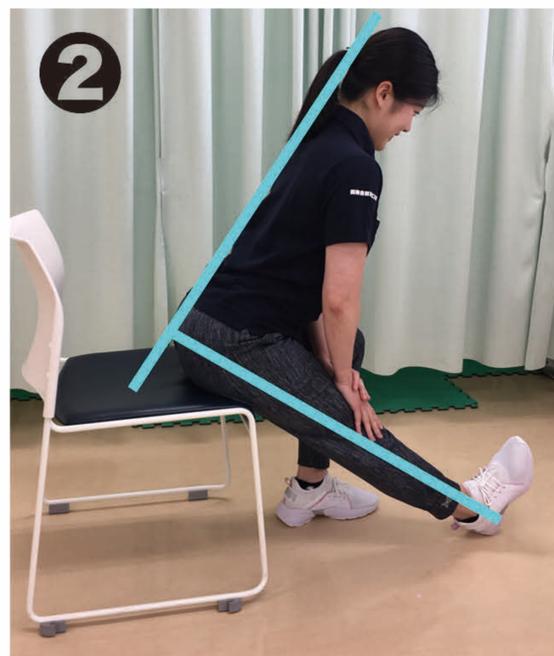
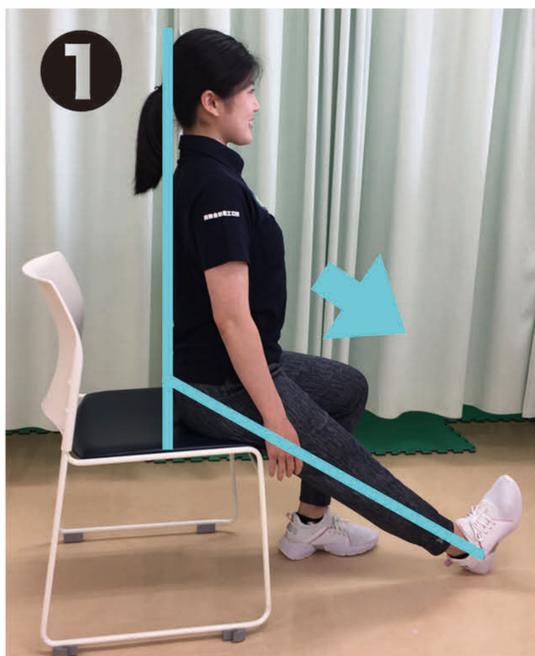


図2



最後までお読み頂き、ありがとうございました。

## 次回の第56回埼玉全国舞踊コンクール2024

### ◇日程

- 7/27(土) バレエシューズ部門、クラシックバレエ部門1部予選、  
創作舞踊部門予選  
7/28(日) クラシックバレエ部門ジュニア部予選  
7/29(月) クラシックバレエ部門2部予選  
7/30(火) クラシックバレエ部門2部決選  
7/31(水) クラシックバレエ部門ジュニア部決選  
8/1(木) クラシックバレエ部門、創作舞踊部門決選、表彰式  
8/2(金) モダンダンス部門1部予選、

### 【新設!】トライ部門

・ソロのみ ・ジャンル不問 ・年齢制限なし!

- 8/3(土) モダンダンス部門2部予選  
8/4(日) モダンダンス部門2部決選  
8/5(月) モダンダンス部門ジュニア部予選  
8/6(火) モダンダンス部門ジュニア部決選  
8/7(水) モダンダンス部門1部決選、表彰式

◇会場 埼玉会館大ホール

◇申込 2024年4月11日(木)～4月20日(土)  
マイページより受付(協会HPをご覧ください)

来年もたくさんのダンサーのご出場をお待ちしております!

## 協会員からのお知らせとご案内

### 「第34回マヤバレエスタジオ発表会」

©2023年11月26日(日) 15:30～ クレアこうのす大ホール  
連絡先: mybstudio.life@gmail.com またはホームページから要予約

伸びゆく埼玉の子どもたちによる

## 第56回バレエ・モダンダンスフェスティバル

2024年3月3日(日) 埼玉会館大ホール

舞踊協会会員の各研究所・教室の児童を中心とした合同発表会。他スタジオとの  
競演発表で、研究しあって向上を図ることを目的に実施しています。  
皆様のご来場をお待ちしております!

バレエ・モダンダンスのジャンルを超えて集う創造の場  
埼玉県舞踊協会新進芸術家育成企画 BALLET & MODERN DANCE

## 第48回 STAGE1

埼玉県舞踊協会が47年間継続し多くの人材を送り出してきた実績を持つ  
『ステージ1』が幅広い作品をお贈りします。

2024年6月23日(日) 開演13:00 / 開演17:00

彩の国さいたま芸術劇場小ホール

総合芸術作品に対して「ステージ1Hope賞」「ステージ1Performance賞」  
をお贈り致します。国民文化祭への推薦も企画予定!

参加者募集開始 2023年11月

美を内包する空間での実験的ダンスパフォーマンス

## コレオグラフィアーの目 Vol.21

2024年素敵な季節に開催 乞うご期待!

### 編集後記

2023年秋56号協会ニュースを発行します。コロナ禍から少し抜け出し世の中が一気に動きだしました。協会も活動を進めます。11月には、文化庁の大きなイベントにも参加。協会員の皆様からの応援よろしくお願いたします。

広報部: 笠原千珂子 山本教子 弓削多淳子 矢島茜



埼玉県舞踊協会主催

コンテンポラリーダンス公演

「結・海と空」上演!

日時 2023年11月5日(日)

15:00開演(14:15開場)

会場 那覇文化芸術劇場なは一と大劇場

チケット 全席指定 一般¥3000

U-18 ¥2000

「遠くのあなたの今」と「私の今」を繋ぐ海と空。  
森羅万象は私事(わたくしごと)となり、生き、生かされることを知る。

埼玉全国舞踊コンクール創作舞踊部門 第1位受賞者8名/組が  
共通テーマ「地球を取り巻く様々な事象への視点」で  
生み出す作品群と芸術監督 藤井香の総合演出による  
地球を包括する魂のダンスが、今一 はじまる。

古典から現代に至る 様々な文化が呼応する芸能の島「沖縄」  
この地での開催は、多様な視点が共鳴する本作品に  
命を吹き込むこととなるでしょう

チケット: e+(イープラス) <https://eplus.jp>

teket(テケト) <https://teket.jp>

振付: 高橋裕子、鈴木泰介 / 贄田麗帆、富士奈津子、榎田祥光、  
たけだ有里、久住亜里沙、原島マヤ、高橋純一 (\*受賞年順)  
藤井 香 (芸術監督、総合演出)

出演: 安達 雅、有路 蘭、池田美佳、石井 武、磯 結夏、板垣明日香、  
江積志織、大橋美帆、大前裕太郎、岡本優香、小川麻里子、小澤早嬉、  
小関晏奈、海保文江、加藤玲美、金森みずほ、榎田祥光、久住亜里沙、  
工藤史皓、近藤みどり、佐々木春呼、佐藤未晏、佐藤優子、佐藤洋介、  
椎野 純、清水綾乃、須貝紗弓、鈴木泰介、鈴木美南、鈴木泰羽、高城愛菜、  
高橋あかね、高橋純一、高橋茉那、高橋幸穂、たけだ朱里、たけだ有里、  
田崎真菜、田中朝子、田中樹奈、津田ゆず香、中村香奈子、中村美音、  
中村玲音、新田春保、新野あさき、贄田麗帆、原田朋香、根岸早苗、  
富士奈津子、堀口由紀子、松崎えり、松元日奈子、村上ふみ、村松千花、  
村山藍子、森山結貴、八木美帆、矢島 茜、安岡由美香、山田総子、  
湯田梨央奈 (五十音順 | 総勢 62名)

※都合により出演者が変更になる場合がございます。

主 催: 埼玉県舞踊協会

統括団体: 一般社団法人現代舞踊協会

後 援: 沖縄県、那覇市、沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、  
沖縄県文化協会、那覇市文化協会

助 成: 文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術  
需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

宣伝美術: 有限会社アームズ

宣伝用絵画提供: わかたけアート(社会福祉法人 若竹福祉会)

問い合わせ: [saitama.dance616pr@gmail.com](mailto:saitama.dance616pr@gmail.com)

## 埼玉県舞踊協会

◇ホームページ

<https://www.saitamaken-buyoukyokai.jp>

◇Eメール [saitama-dance@blue.ocn.ne.jp](mailto:saitama-dance@blue.ocn.ne.jp)

○お知らせ

次号の「協会員からのお知らせとご案内」への掲載は2024年5月～2024年10月のイベントが対象となります。第57回舞踊協会ニュースの発行予定は2024年4月です。申込締切は2月末日と致しますのでお早めに広報までお知らせください。

ホームページ



Instagram



@SAI.DANCE1967